

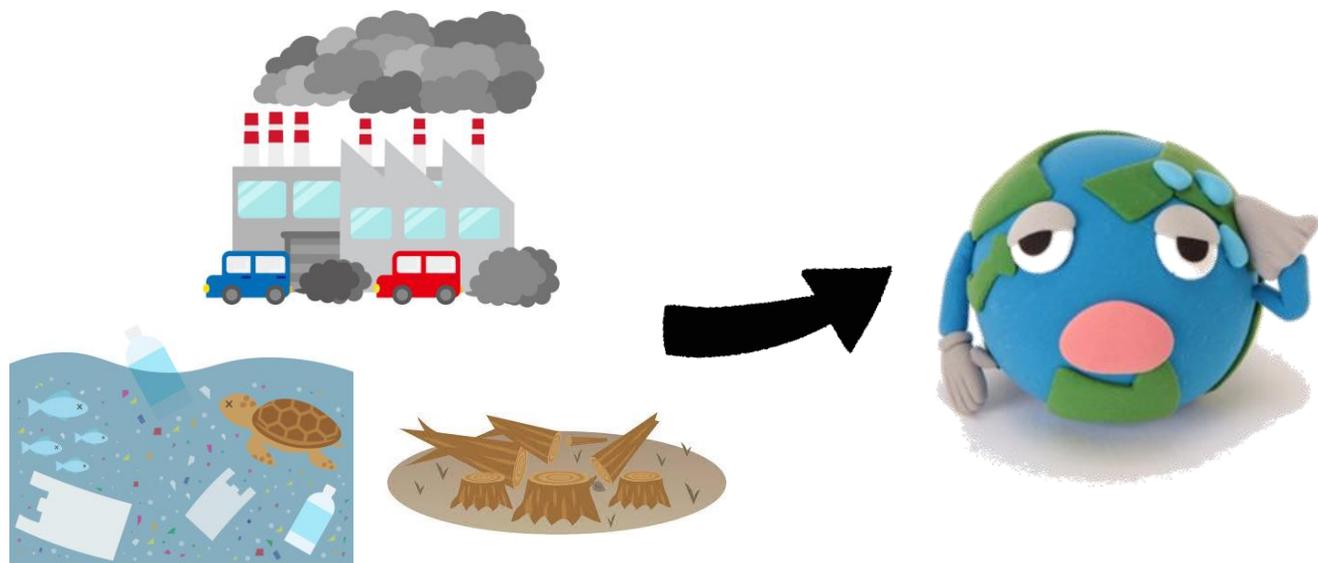
みんなで学ぼうSDGs！



かつて、みんなの住む日本は、海や森、田んぼなどの自然がたくさんありました。みんなのお父さんやお母さんが子どもの頃は、その自然資源を自由に使って生活していても、地球はとても元気でした。

その後、日本の経済はどんどん成長し、みんなが住みやすいまちにするために、たくさんのお家やお店、工場が建ちました。それは日本だけでなく世界のみんなも同じです。

その結果、森林を伐採したり、海を埋め立てたり、ごみを燃やしたり、地球の自然資源をたくさん使い続けることで、地球の資源が足りなくなっていました。



「このままでは、地球の資源がなくなってしまう！」と気付いた世界の人々は、地球の資源を守るためにはどうしたら良いのか考えました。

そして、「みんながずっと住み続けられるように地球を守る目標」と「より良い世界をつくるための目標」を決めました。それがSDGs（エスディーゼイズ）です。

もう少し簡単に説明すると、「**みんなが地球でずっと暮らしていけるような世界をつくるための目標**」のことです。

みんなでおぼろSDGs!

SDGs

Sustainable
Development
Goals
(持続可能な開発目標)



SDGs (エスディー・ジース) は、

「Sustainable Development Goals」の頭文字です。この英語を日本語にすると、**持続可能な開発目標**という意味です。これは日本だけでなく、国連というたくさんの国が集まる会議で話し合いをして、みんなが地球でずっと暮らしていけるような世界をつくるための目標を決めました。



みんなでおぼろこと

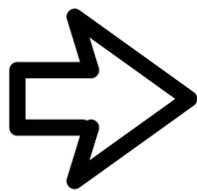


その1 国連加盟193か国の行動計画 (2030年までに達成)

世界の国が、みんなの地球のためにどんな行動をしていくのかを決めました。



2015年



2030年



その2 17の目標と169のターゲット

どんな課題を持つ、どのような人たちに向けて行動すれば良いのかを決めました。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



12 つくる責任 つかう責任



17ある目標の12番目に、「つくる責任 つかう責任」があります。持続可能な消費と生産のパターンを確保するというものです。

特に問題となっていることがフードロスです。今のままでは、一部の国では食べ物の大量廃棄、一方で、十分な食べ物が食べられず飢餓に苦しむ国が増えていくこととなります。

また、環境や経済に対する影響もあります。大量の食べ物を廃棄するために多くの資源が使われ、莫大な費用がかかります。さらに、焼却時には温室効果ガスを排出し、環境汚染にもつながります。日本の土地には限りがあるため、埋め立てでの廃棄はごみの最終処分場の確保という点でも大きな問題となっています。

ポイント

フードロスについてみんなで考えてみよう！

Q1



世界で生産されている食品のうち、どれぐらいの量がフードロスとして捨てられているでしょうか？

①約30% ②約20% ③約10%

Q2



世界では年間335億トンの温室効果ガスが排出されていますが、そのうち、フードロスの焼却によって排出される温室効果ガスは全体の何%でしょうか？

①1%未満 ②約5% ③約10%

身近で取り組むSDGs①

ポイント

どれだけの食べ物が廃棄されているのかな？

答え

正解は、①約30%です。

その一方で、世界では8億人もの人たちが食べるものを食べられず、飲むものも飲めずに飢餓に苦しんでいます。

答え

正解は、③約10%です。

日本ではお店から出る廃棄物が357万トン、家庭から出る廃棄物が289万トン、合計646万トンが1年間に廃棄されています。

ポイント

フードロスが環境に及ぼす影響

フードロスが増えると、たくさんの廃棄物を燃やすことになり、温室効果ガスも大量に排出されます。この温室効果ガスは地球環境に悪影響を及ぼします。どんなことが起きるのでしょうか？

■地球温暖化が進む！

寒い地域が寒くなくなったり、暑い地域はさらに暑くなり、2100年までに今よりも気温が4度上がるとも言われています。

そのせいで大雨や洪水、台風が増えたり、元々雨や雪が降らない場所は砂漠化が進んでしまいます。

異常気象のせいで田んぼや畑の作物が取れなくなり、動物の住む環境も変わるため、みんなの食べるお肉やお魚などが少なくなります。

■陸がなくなる！

地球温暖化により南極や北極などの氷河や高い山の雪が溶け海に流れることで、海の水が増えて水位が上がり、低い場所にある土地や小さな島などが海に沈んでしまうことになります。

身近で取り組むSDGs①

ポイント

食べ物の廃棄を減らすことはできないかな？

12 つくる責任
つかう責任



「賞味」期限と「消費」期限の違いを再度確認し、日頃から日付をチェック！

＜賞味期限＞

食品劣化の遅い、スナック菓子、カップめん、缶詰、レトルト食品などに用いられています。美味しく食べることができる期限のことです。

＜消費期限＞

食品劣化の早い、弁当、サンドイッチ、生めん、総菜、ケーキ等に用いられています。食べない方がいい期限のことです。



買い物の前や、料理や食事の時にチェック！

- 買い過ぎない
→ 買い物に行く前に自宅にある食材を確認する。
- 使い切る
→ これまで捨てていた部位でも何か調理法がないか、レシピサイト等で調べてみる。
- 食べきる
→ 必要な量だけ調理し、食べ残さない意識を持つ。
食べられるだけの量をお皿によそい、足りなければおかわりをする。



外出するときにはできること！

フードロス削減に積極的なお店を選ぶことを心がける。注文する時は食べられる分だけ注文するようにする。



余った生ごみを、コンポストを使って肥料として土に戻すことも身近なSDGsの取り組みです。
高浜市では生ごみの減量化を進める目的で、生ごみ処理機購入費の一部を補助しています。

14 海の豊かさを守ろう！



17ある目標の14番目に、「海の豊かさを守ろう」があります。海をみんなで守り、持続可能な形で海の資源を利用していくというものです。今のままでは、水質汚染や気候変動によって、海に住む生き物の数は減り、みんなが生活する中で出たゴミによって海は汚れ、獲れる魚の数も少なくなります。

特に問題となっていることが、海に捨てられるプラスチックごみの量が多いことや、マイクロプラスチックごみの誤飲による海の生き物への被害です。また、加工や保存、輸送技術の発達によって多くの魚介類が消費されるようになったことによる過剰消費や違法漁業や乱獲なども水産資源に大きな被害を与えています。

ポイント

海についてみんなで考えてみよう！

Q1

私たちが使っているペットボトルやビニール袋などのプラスチックゴミは、1970年代から1990年代の20年間で3倍に増えました。では、年間何万トンのプラスチックゴミが海に流れているのでしょうか？

① 8万トン ② 80万トン ③ 800万トン

Q2

海にいる魚の漁獲量は年々減っています。それは、生まれる魚の数より、漁獲の数が多いからです。現在、絶滅することなく持続可能な魚の種類は全体の67%とされていますが、昔は何%あったのでしょうか？

① 70% ② 80% ③ 90%

身近で取り組むSDGs②

ポイント

海ではどんなことが起きているのかな？

答え

正解は、③**800万トン**です。

私たちは毎年3億トンものプラスチックごみを出していて、この重さは、世界中の人々の体重を合計したものとほぼ同じ重さになります。もし、みんながこのままのペースでプラスチック製品を作り、使い、捨て続けると、2050年には、魚の数より多いプラスチックが海を漂うことになります。

答え

正解は、③**90%**です。

みんなで魚を獲り過ぎないように管理していけば、「持続可能」な資源になります。しかし、世界の国々が奪い合うように海の生き物を獲ると、近い将来「枯渇」してしまうかもしれません。そうなると、魚を食べる私たちも、漁師さんも大変困ることになります。

14 海の豊かさを
守ろう



みんなのお家でできること



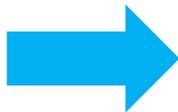
世界では、1分間に100万本のプラスチックボトルが売られています



マイボトルの利用やラベルレスのペットボトルを購入する



私たちが使っているプラスチックの50%は使い捨てです



マイ箸、マイスプーンの利用や、紙製品の容器、ストローを使用する



毎年、世界では5兆枚のビニール袋が使われています



エコバックを利用する

みんなが進めようSDGs



SDGsと聞くと「よく分からないなあ」「自分には関係ないかな」と思う人もいるかもしれませんが、実はみんなの生活の近くにあるんです！いつもの生活を、いつもの行動を少し見直すだけで、みなさんも簡単に取り組むことができます。今日からできるSDGsを、みんな考えていきましょう！

私たちの思い

私たち**高浜青年会議所**は、SDGsとは何かを学ぶことから始めて参りました。そして今、**学びから実行へ**と軸を転換し、我々からまちへ、まちから社会へと、**SDGsの輪を広げていきたい**と考えています。

今日の体験を通し、ご参加いただいたみなさんが少しでもSDGsを身近に感じ、ご家庭で考えるきっかけになればと思います。

今日の様子をご自身のSNSで発信していただいた方、また、高浜青年会議所が発信する公式SNSをフォローしていただいた方には、特典として、地元企業様から協賛いただいた品をプレゼントします。

是非、高浜市でSDGsの活動の輪を広げていきましょう！

